



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

仏法聴聞は

心のインフラ整備

猛暑の夏が過ぎ、九月を迎えます。異例な暑さ続きと共に、雨の降り方も尋常でなく、大きな災害をもたらしました。西日本豪雨は二百名以上の犠牲者を出し、復旧はなお道遠い現状と聞き、痛ましい限りです。心よりのお見舞いを申し上げます。

わずかばかりの災害義援金を出しましたが、猛暑の中沢山のボランティアが被災地を訪れて災害復旧に尽力された方々には頭が下がります。仏さまとは他人事と見捨てておけぬお方ですが、こうした災害ボランティアの活動に尽力される方々は尊い仏心の持ち主だと敬わずにいられません。

広島には少なからずお念仏ネットワークのつながりがあり、被災地のご苦労を知らされました。長らく断水で難儀した地域が多かったそうですが、ある家では井戸が残っていて、水のおすそ分けをして心寄せ合いました。また、長い避難所生活を余儀なくされた方は、その心中を次のような歌に詠んで下さいました。

「避難して家を出れば身ひとつにおまかせするほかなき」とを味はふ。



この短歌に添えて、「何もかも体験し、学び、(仏さまの)智慧を受くるためだ」と思うことができました」と「苦勞の多い中に、安らぎのお心を吐露されました。大変な災難の中に、ただ弥陀如来(ひとつ)にお任せする外なき身と味わい、学ぶ体験であったと領解しておられるところに救いがあります。真剣な聴聞のお蔭で苦惱を乗り越えられたのだと思われまます。

異常な猛暑といい、東から西へと逆走した台風といい、地球環境の温暖化現象は今後どんな猛威を振るうか、予見しがたいものがあります。予報や避難対策の強化、更なる防災対策、インフラ整備が望まれますが、私たち一人一人はどう立ち向かえばいいのでしょうか？

「心のインフラ整備」こそ肝要なのではないでしょうか。インフラとは「下部構造」、「土台」というような意味です。この世に生きている限り何が起るかわからない。どんなことが起っても柔軟に乗り越えられる「智慧」の土台造りが必要です。

「死ぬことが情けないのではない。

☆行事ご案内

◇門信徒会 9月例会

9月16日(日)夜7時半

- ①災害列島日本の来し方、行く末
- ②老いに聞こえる仏様の言葉



◇絵手紙教室 9月11日(火)午前10時 庫裏食堂、小杉郵便局、百五銀行門徒展にも出品。下手でいい、下手がいい、初心者歓迎

◇キッズサンガ 9月1日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、

◇『小杉町追悼法要』 9月23日午前・午後、光念寺様(隔年) 小杉仏教会主催、年間物故者と戦没者の遺族、町役員様らの共催

※第8回百五銀行善正寺門徒展作品募集中!今年も10月1カ月間阿倉川支店で開催。締め切り9/28。多数の応募作品をお待ちしています!作品は11/2, 3の報恩講で本堂にも展示します。

◇善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸10年1カ月で27万3千訪問、一日平均75人程、悩み相談、大歓迎!即返信

◇一縁会テレホン法話 TEL 059-354-1454お電話下さい 3分間で法話が流れます、週替わりで三重組5か寺の住職、坊守、若院が担当。新刊本『参らせてもらうでね』(自照社刊)発売中

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事の場所でお困りの方:本堂使用可。寺にご相談下さい。

カンパありがとうございます!
 澤田美智江様、赤井淑子他よりお志、切手等頂戴しました。感謝いたします。



空しく終わる人生がやりきれないのだ(浅田正作)。「本願力にあひぬれば空しく過ぐるひとぞなき 功德の宝海みちみちて煩惱の濁水へだてなし」(親鸞聖人・高僧和讃)と葬儀の時拝読されます。「空しく」過ぎることのなきように、仏法聴聞に励み、本願力に遇うことにより「心のインフラ整備」に努めましょう。

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ

楽しみはどんな時?



「たのしみは 朝起きいでて 昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時」という歌は、江戸末期の福井の歌人橋曙寛たしななけの作です。正岡子規は彼の才能を絶賛。また1994年、クリントン米国大統領が、天皇后両陛下の前で、この歌を取り入れたスピーチをして一躍脚光を浴びました。

先日私もこの歌とよく似た経験をしました。垂坂山を散歩中にスマホの呼び出し音が鳴りました。相手は一人暮らしのキユウリ漬けの女性(91)。毎週2回早朝に大好きなキユウリ漬けを、郵便受けに届けて下さいます。

「早朝お寺に参るのが私の修行ですから」と謙遜されますが、腰が痛い時には連絡を受けて私が伺います。その朝も腰の調子が悪いのかと思いきや「キユウリ漬けは寺へ届けました、是非見せたいものがありますので立ち寄って下さい」との電話。何うと、

「早朝はつぼみでしたが、先ほど蓮の花が一本咲きました。是非見て頂きたい電話。切つて仏前にお供えしようか?」「いいえ、蓮は泥水の中でこそ毎朝美しく咲き続けるのです。また連絡下されば、いつでも見に来ます」と固辞して記念写真を撮りました。そもそもこの蓮は、離れて住む息子さんが、母親の日々の楽しみにと持って

きて下さったもの。他にも四季折々の花々が咲いています。「自分の体の守りも大変なのに、息子が世話の多い草花を持ち込んでくれます。毎日水やりが大変です」と言いながらも、親孝行な息子さんの思いやりが感じられます。お母様も息子さんの優しさに甘えることなく、凛とした生き方を通す精神力の持ち主です。人生100年時代に相応しい私のお手本のような方です。年老いて友達も少なくなり、外出する機会も減り、健康状態も思わしく無い時、私達はどんな心の持ち方をすればいいのでしょうか?日常生活の些細な出来事の中で、昨日とは違った楽しみを見つけ、喜びを分かち合う人がいる。そんな老後を送りたいものです。

寄稿

呉市・本田和子

避難して家を出づれば身ひとつに

おまかせするほかなきを味はふ

四日市市・釋妙水

蚊遣香腰にぶらさげゆらゆらと

ワイパー切る虹のかけ橋かかりけり

廃屋やひまわり草はびこりて

打水や仏の涙想う黙もくもく 四日市・釋清風

訃報入る夜陰しばしの端居はなぢかな



☆学院夫婦の「育自な毎日」その45

小1の長男は、学期末の三者懇談で、先生から「R君は私が言おうとしたことを先に言ってくれます」。きつとお寺の大人に囲まれた環境の中で、子供なりに身に付けた術でしょうか?

帰り際、朝顔のプランターを持ち帰りました。朝顔の世話も夏休みの宿題。新学期に種を学校へ持って行きます。

「夏ドリル、計算カード、本読み、手伝い、歯磨き、朝顔」の六つが、夏休みの宿題です。毎朝起床したらすぐにラジオ体操をして、朝食後にそれらの課題に取り組みます。夏ドリルは一学期の復習、計算カードは10までの足し算・引き算、本読みは音読集の中から好きなものを選んで読みます。

長男には学校の課題以外にも「夕方のお参り」という日課があります。ところが、夏休みに入ってから午前中や昼食後に済ませて変則的。自分の都合のいい時間にお参りしています。母親にとっても夕方は忙しい時間帯なので、早く済ませてくれると助かります。代わりに夕方、長男が何をしているか

といえば、お風呂タイムなのです。今夏は猛暑続きで、子どもたちは頻繁にシャワーを浴び、夕方はしっかりと湯船に浸かって一人でのんびり入浴タイム。タオルを頭に乗せて、すっかりお風呂気分満喫。先日は近くの温泉施設でなかなか帰ろうとしません。

この風呂好きは誰に似たのかな?夏休みだからこそできる時間の使い

方で、今だけの楽しみをそっと見守りたいと思います。(潤爾&由佳)

ホットニュース

※15日朝8時半、第3回孟蘭盆会法要には、猛暑の中ご家族お揃いでようこそお参り下さいました。亡きご先祖が結んで下さったご縁の絆を、これからも大切に育てていきましょう。

お知らせ

※「第8回善正寺門徒展」を今年も10月の1カ月間、百五銀行阿倉川支店で開催します。門徒さん以外の作品もOK。皆様からの作品ご協力をよろしくお願いします。募集締め切りは9月28日。作品は11月2・3日の報恩講で善正寺本堂にも展示します。

敬告

《お礼》8月初め、総代さん、行事さん、住職らの巡回で、本年度門信徒会年会費を集めさせて頂き、皆様のご協力を賜り有難うございました。感謝!

★相可茂信様(7月7日)ご往生。45歳、上海で急死、22日葬儀)合掌

★長谷川麟太郎様(7月14日)ご往生。88歳、四日市ときわ)合掌

☆編集子より☆

「善正寺だより」297号をお届けします。◇豪雨災害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。◇十数万のボランティアの方々被災地復旧に駆けつけたとのこと、有難いことと合掌称名の次第です。◇水、電気など生活インフラのお蔭で猛暑の夏も何とか乗り切れそうです。「一杯の水も仏の涙かな」(山頭火)。合掌称名。

今年は連日35度を超す暑さ、一日中クーラーをつけ放し、
外出したくない心境です。孟蘭盆会法要や永代経法要
にはようこそお参り下さいました。今年で3回目を迎えた
孟蘭盆会法要には、地元の皆さん以外に新しくご縁を
頂いた方にもお参り頂き有難うございます。これも七き
人が結んで下さったご縁。大切な方が仏様となってあなたを
本堂へ導いて下さったと受け取めたいと思います。ここ
ろで7月の西日本豪雨災害では各地に甚大な被害を
与えました。広島県呉市には教名の親しい法友がいま
す。断水と交通網遮断の中、メールで状況を伝えて下さり
ました。ボランティアに行きたくても高速道路は大渋滞
で家族が反対。幸い我が家には井戸があり、裏道を通り
軽トラで水配り。ご近所さんにも井戸水を利用してもらい
喜ばれました。災害によってご近所の絆が深まり、まるで
臨時井戸端会議。もし仏法に出遇っていなかつたら、先
の光が信じられず、暗闇のまま、聴聞のおかげで前
を向いて生きられます。と力強いメッセージが届き、私達の
方が学ばせて頂きました。何故自分達だけがこんなな
どい目かというと、泣き言や愚痴を言わずに、全てをありのま
まに受け止めて力強く乗り越える術を賜る「聴聞
の底力」を感じました。災害は何時わが身に降り
かかるかわからないご時世です。何か起こらうとも慌
てることなく安心してお任せする気持を、日頃から
養いたいものです。残暑厳しき折、自愛下さい。合掌
平成三十年九月 善正寺坊守 拝